

第5回中央区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日時 平成17年4月4日(月)午後6時30分から8時まで
場所 中央区役所 4階会議室
出席委員 25名中13名出席
事務局 保健福祉総務課 森川、情報化推進課 皆川(オブザーバー)
保険年金課 増田(B分科会担当)

議 題

前回(3/19)の策定委員会で検討課題とされた内容を含め、今後どのように進めていくのか、意見交換し、方向性を確認する。

今後、この策定委員会で確認した方向性をもって、分科会等において検討を深める事とする。

【参考】

3月19日の策定委員会において検討課題とされた内容

「第二章 地域福祉の展開」について

基本方針1から7までの内容を横断的に調整する必要がある。

具体的な取組の担い手が町内自治会に偏っている。自治会以外の担い手、人材の育成が必要ではないか。

委員の意見

1 基本方針の内容

委員： 基本方針の中には、内容が似通っているものがある。(例えば基本方針の4と6、1と4)。タイトルにとらわれず、中身は何を狙っているのか、もう一度整理する必要がある。

担い手として町内自治会は万能薬ではない。担い手の検討が必要だ。

市と社会福祉協議会(以下、社協)が同じような計画を作っている。市と社協にはよいパートナーシップを築いてもらいたい。

委員： 基本方針4は幅が広い。7つの方針について反省点を挙げるほうが早いのではないか。

具体的な取組は、今の延長線上で基本方針にそって見直しをして行く必要がある。

委員： 基本方針 4 を人材の育成に絞り込めば、基本方針 6 とのすみわけができるのではないか。

2 具体的な取組の担い手

委員： 担い手は、町内自治会や老人会などの既存の組織を動かしていくのがよい。

委員： 町内自治会の活用の記述が多いが、ボリュームが多すぎる。ボランティアを活用するべきだ。社協で新しいボランティアを増やすのがよい。既存の組織は負担が多すぎる。

委員： 町内自治会も高齢化している。若い世代のボランティアを増やしたい。そのためには、子供を引っ張り出し、その母親たちを担い手として育てるのはどうか。

委員： 地域の中に新しい組織をつくり、若い人たちを募集したほうが計画が生きると思う。

委員： 社協の地区部会があるのだから、ボランティアを新たに加え、組織を拡大し、人材の育成を進めたほうが、新しい組織を立ち上げるよりいいのではないか。

委員： 男性の地域へのかかわりは女性に比べると薄い。だから、定年前に地域に参加できるような仕組作りが必要。先ほどの話ではないが、母親をひっぱりだすのではなく、代わりに父親を、とか・・・

委員： 地域には特徴があり、単独でできるところから、小学校区まで拡大する所まで様々だ。選択肢をいくつか用意することがいいのではないか。

委員： 担い手、地域の範囲、拠点。この3つの要因を組み合わせるといような選択肢がある。

委員： 地域を限定する必要はないのではないか。やる人たちが自主的に決めればよい。

3 その他

委員： 他の分科会の内容がわからない。計画全体が眺められるような相関図的なものが欲しい。

委員：今回は、計画を作って終わりか。それとも18年度以降の実効性のあるものまでとするのか・

委員長：基本方針4の中で平成18年度からの計画実施を推進するために、進行状況を確認・評価・分析する推進協議会を創設していこうという考えがあるので、そこへつなげていくことになる。

できれば、この取り組みの中から、優先順位をつけて、リーディング事業を決めていってはどうか。

4 まとめ

委員長より

基本方針の内容

大枠は変更しないで、言葉の手直しと7つの基本方針の横断的な調整が必要なようだ。

具体的な取組の担い手

町内自治会だけでは無理というのが、本日の会議で共通認識された。

新しい組織の創設、あるいは社協などの既存組織の活用などを検討する必要がある。

また、ボランティアの育成、子供を通して親を引っ張り出す、地域の施設の活用等の意見もでた。

最終的には策定委員会が固める内容であるが、検討を煮詰めるほうがよいと思うので、分科会で検討してもらえないか。(分科会構成委員了解)

5 今後の分科会の進め方について

本日の会議結果を受け、分科会においては、次のことに留意し、会議を進めることとなりました。

分科会での検討を進める中で、基本方針についての修正を加える点があれば、一緒に検討し、その内容を次の策定委員会へ報告する。

担い手については、誰に実施してもらうことがふさわしいのか、議論を深めていくこととする。

以上